

月	旬	対象病害虫	通常防除体系		安全使用日数と 本剤の使用回数	10a当り 散布量	旬	ミツバチ導入園地防除体系		防除の注意事項等
			薬剤名	倍数（100ℓ当り薬量）				薬剤名	倍数	
落葉後 ↓ 発芽前 （月 日）		―――	展着剤（アイヤーエース）	1万倍（10mℓ）	―――		落葉後 ↓ 発芽前	展着剤（アイヤーエース）	1万倍	【炭そ病の防除】 炭そ病は枯死芽等で菌糸越冬し、開花前より胞子を形成して飛散させる。炭そ病の発生が多い園地ではこの胞子形成を抑制する薬剤を選択して使用する。また、7月下旬～8月頃の発病では「葉焼け」状の枯死葉が目立ち落葉し、その基部の芽は枯死し、翌年の伝染源となる。
		越冬病害虫	石灰硫黄合剤	10倍（10ℓ）	発芽前	250ℓ		石灰硫黄合剤	10倍	
4月	上旬 （月 日）	カイガラムシ類	トモノールS	100倍（1ℓ）	発芽後2週間まで	300ℓ	上旬 （月 日）	トモノールS	100倍	【凍霜害対策とグリーンシステム】 グリーンシステムはてんさいから抽出したグリシンペタインが成分です。グリシンペタインは植物細胞の浸透圧を調節し水分ストレス（凍霜害・低温・乾燥害・高温・塩害等）から作物を守り減収を軽減します。 10a当り500gを500倍にして発芽期頃より使用。
		せん孔病・灰星病	トップジンM水和剤	1,000倍（100g）	収穫14日前までの3回以内			トップジンM水和剤	1,000倍	
		カイガラムシ類幼虫	アブロードフロアブル	1,000倍（100mℓ）	収穫7日前までの2回以内			アブロードフロアブル	1,000倍	
	下旬 開花直前 （月 日）	灰星病・炭そ病 幼果菌核病	フルーツセイバー	1,500倍（66mℓ）	収穫24時間前までの3回以内	400ℓ	下旬 開花直前 （月 日）	フルーツセイバー	1,500倍	【ソリボーの効果】 ソリボーは水溶性ホウ素を63%含んだ肥料です。ホウ素には花粉管の伸長を改善する作用も確認されているので、開花前に使用すると効果的である。1000倍
		ハマキムシ類	フェニックスフロアブル	4,000倍（25mℓ）	収穫24時間前までの2回以内			バイオマックスDF	2,000倍	
			海藻サンバ	2,000倍（50g）	―――			海藻サンバ	2,000倍	
5月	上旬 満開3日後 （月 日）	灰星病・幼果菌核病 褐色せん孔病	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍（33g）	収穫24時間前までの3回以内	400ℓ	上旬 満開3日後 （月 日）	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	開花期のハチ交配に【カモンビービー】 カモンビービーは西洋ミツバチの好む花の香り成分を配合した資材です。10a当り10～12パックをハチを誘導するように圃場に均一に配置します。
		ハマキムシ類	サムコルフロアブル10	5,000倍（20mℓ）	収穫24時間前までの3回以内			バイオマックスDF	2,000倍	
		コアオカスミカメ	ウララDF	2,000倍（50g）	収穫24時間前までの2回以内					
			海藻サンバ	2,000倍（50g）	―――			海藻サンバ	2,000倍	
			グロースター1号	100倍（1kg）	―――			グロースター1号	100倍	
	中旬 満開15日後 （月 日）	―――	展着剤（アイヤーエース）	1万倍（10mℓ）	―――	500ℓ	中旬 満開15日後 （月 日）	展着剤（アイヤーエース）	1万倍	【展葉後のコアオカスミカメ対策】 展葉後にコアオカスミカメの被害が問題になる園地ではウララDF 2000倍（収穫24時間前までの2回以内）を使用する。但し、通常防除体系園地での使用とする。
		灰星病	スミレックス水和剤	1,500倍（66g）	収穫14日前までの3回以内			スミレックス水和剤	1,500倍	
		炭そ病・灰星病	キャブレート水和剤	800倍（125g）	収穫14日前までの2回以内			キャブレート水和剤	800倍	
		オウトウハマダラミハエ	アグロスリン水和剤	1,000倍（100g）	収穫3日前までの2回以内			アグロスリン水和剤	1,000倍	
			海藻サンバ	2,000倍（50g）	―――			海藻サンバ	2,000倍	
	下旬 （月 日）		カルポイント液	1,000倍（100mℓ）	―――			カルポイント液	1,000倍	【ミツバチ導入園地での開花期の殺虫剤使用制限】 ミツバチを保護するため、開花1週間前から巣箱を撤去するまでは殺虫剤を散布しない。 但しバイオマックスDF 2000倍は使用できる。 バイオマックスDFはハマキムシ類に効果がある。希釈倍数は2000倍で収穫24時間前まで使用できる。
		コスカシバ対策 スカシバコンL （5月下旬まで設置） 性フェロモンの交信を攪乱することにより成虫の交尾の機会を減らして、次世代の発生密度を下げていきます。 10a当り50本を目通りの高さ（約150cm程度）の枝に軽くひとひねりして固定する。								
6月	下旬 （月 日）	灰星病・黒斑病 炭そ病・褐色せん孔病 カメムシ類 オウトウショウジョウバエ	オンリーワンフロアブル	2,000倍（50mℓ）	収穫24時間前までの3回以内	500ℓ	【ミツバチ導入園地での落花期のハマキムシ類防除】 満開7日後（但し巣箱撤去後）にハマキムシ類の発生が見られる場合は、サムコルフロアブル10 5000倍を散布してもよい。			
			アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍（50g）	収穫24時間前までの2回以内					
		ハダニ類	ダニコングフロアブル	2,000倍（50mℓ）	収穫24時間前までの1回					
			又は、ダニオーテフロアブル	2,000倍	収穫24時間前までの1回					
7月	着色始期 （月 日）	灰星病	スコア顆粒水和剤	2,000倍（50g）	収穫24時間前までの3回以内	500ℓ	【褐色せん孔病対策】 褐色せん孔病は5月下旬～6月上旬に発生しはじめ、梅雨期の7月から8月頃に被害が最も甚しくなり、被害葉は8月下旬～9月早々に黄変落葉する。感染は新しい葉が発生してくると始まるので展葉期から効果的な薬剤を使用することが大切である。			
		ショウジョウバエ類 カメムシ類	テルスターフロアブル	3,000倍（33mℓ）	収穫24時間前までの2回以内					
			海藻サンバ	500倍（200g）	―――					
			ツートップ48（亜リン酸入り肥料）	1,000倍（100mℓ）	―――					
	中旬 （月 日）	灰星病・黒斑病 炭そ病・褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ	ナリアWDG	2,000倍（50g）	収穫24時間前までの3回以内	500ℓ	【果実の障害発生時期に注意】 6月上旬には展着剤を使用しない。また、着色始期頃に乳剤を使用すると果実に障害が発生することがあるので使用しない。			
			エクシレルSE	2,500倍（40mℓ）	収穫24時間前までの3回以内					
			海藻サンバ	500倍（200g）	―――					
			ツートップ48（亜リン酸入り肥料）	1,000倍（100mℓ）	―――					
	下旬 （月 日）	灰星病・黒斑病 炭そ病・褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ カメムシ類	オンリーワンフロアブル	2,000倍（50mℓ）	収穫24時間前までの3回以内	500ℓ	【ツートップ48（亜リン酸入り肥料）】 ツートップ48は亜リン酸を含む液肥で成分は、窒素0％・リン酸29％・カリ19％である。亜リン酸は吸収利用性に優れているので品質向上に役立つ。			
			ダントツ水溶剤	2,000倍（50g）	収穫24時間前までの2回以内					
		ナイスキャッチ	500倍（200g）	―――						
8月	上旬 （月 日）	灰星病・黒斑病 炭そ病・褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ	ナリアWDG	2,000倍（50g）	収穫24時間前までの3回以内	500ℓ	【樹の生育 山形県農業総合研究センター園芸農業研究所 安全使用基準】			
			エクシレルSE	2,500倍（40mℓ）	収穫24時間前までの3回以内					
	中旬 収穫直後 （月 日）	―――	展着剤（アビオン-E）	1,000倍（100mℓ）	―――	500ℓ	【収穫後防除 もも隣接園地対策】 収穫後防除の際に、もも隣接園地でキャブレート水和剤・キノンドー顆粒水和剤が使用できない場合には、アミスター10フロアブル 1000倍（収穫24時間前までの3回以内）に変更する。但し、りんごの一部品種には薬害が生じるので注意する。			
		炭そ病	キャブレート水和剤	800倍（125g）	収穫14日前までの2回以内					
		ハマキムシ類	ディアナWDG	1万倍（10g）	収穫24時間前までの2回以内					
		ハダニ類	マイトコーネフロアブル	1,000倍（100mℓ）	収穫14日前までの1回					
		グリーントップ70（水溶性苦土）	200倍（500g）	―――						
	下旬 （月 日）		お礼肥施肥 （10a当り）	千代田化成 20～40kg + マグボーナS 45kg 【マグネシウム成分配合】						
		―――	展着剤（アビオン-E）	1,000倍（100mℓ）	―――	500ℓ	【収穫後の樹勢管理用葉面散布肥料】 リダバイタル(7.5-5-4.5) アルガミックス (0-11-16) 収穫後の樹勢回復には、リダバイタル 1000倍を使用する。また、着果不良等の原因で樹勢が強く落ち着かせたい場合にはアルガミックス 1000倍を使用する。リダバイタルにはデンサイ糖蜜、アルガミックスには海藻抽出物・糖も配合されている。			
		褐色せん孔病	キノンドー顆粒水和剤	1,000倍（100g）	収穫終了後から落葉期までの3回以内					
ケムシ類		サイアノックス水和剤	1,000倍（100g）	収穫14日前までの2回以内						
	海藻サンバ	2,000倍（50g）	―――							
9月	上旬 （月 日）	―――	展着剤（アビオン-E）	1,000倍（100mℓ）	―――	500ℓ	【7月下旬のハダニ類防除】 高温乾燥が続くハダニ類の発生が心配される場合には、カネマイトフロアブル 1000倍（収穫7日前までの1回）を散布する。又は、単剤でアカリタッチ乳剤 3000倍（収穫24時間前まで）を5～7日おきに2回連続散布する。			
		ハダニ類	コロマイト乳剤	1,000倍（100mℓ）	収穫7日前までの1回					
		褐色せん孔病	キノンドー顆粒水和剤	1,000倍（100g）	収穫終了後から落葉期までの3回以内		【8月下旬～9月上旬のコスカシバ防除】 コスカシバは年1回発生します。越冬は幼虫態で、6月上旬頃より成虫が発生してきます。成虫発生最盛期は8月下旬～9月上旬で、その後産卵最盛期をむかえ、ふ化幼虫最盛期と続きます。テッパン液剤はコスカシバ幼虫に対して安定した防除効果があるため樹体への食入を阻止します。			
		カイガラムシ類幼虫	アブロードフロアブル	1,000倍（100mℓ）	収穫7日前までの2回以内					
	8月下旬 ↓ 9月上旬 （月 日）	―――	展着剤（アビオン-E）	1,000倍（100mℓ）	―――	500ℓ	【冬季のおとう樹 野ねずみの食害忌避にフジワン粒剤】 根雪前には1樹当たり200gを樹冠下半径約50cmの範囲の土壌と均一に混和する。			
	せん孔病	トップジンM水和剤	1,000倍（100g）	収穫14日前までの3回以内						
コスカシバ（ハマキムシ類）	テッパン液剤	2,000倍（50mℓ）	収穫24時間前までの2回以内							
9月	中旬 （月 日）	―――	展着剤（アビオン-E）	1,000倍（100mℓ）	―――	500ℓ				
		褐色せん孔病	コサイド3000	2,000倍（50g）	収穫後					
		―――	クレフノン	100倍（1kg）	―――					
	下旬 （月 日）	―――	展着剤（アビオン-E）	1,000倍（100mℓ）	―――	500ℓ				
		褐色せん孔病	コサイド3000	2,000倍（50g）	収穫後					
		―――	クレフノン	100倍（1kg）	―――					